

from

ほうかつ

令和7年1月発行



特集！ 認知症の方を優しく応援するチームオレンジ！！

～もし家族やご近所さんが認知症になったら？～

令和2年度より、全国で『チームオレンジ』の取組みが広がっています。チームオレンジとは、“認知症の方への見守りやちょっとした声かけ”のネットワークを地域の皆さんと一緒に作り、認知症の方や家族をチームで支える取組みをいいます。檜葉町では今年度より、認知症への理解を深め“認知症の方を優しく応援できる町づくり”を目指して本格的にスタートしました。チームオレンジの構成メンバーは多岐にわたり、認知症サポーター（養成講座受講者）、ご近所さん、医療機関、民生委員、金融機関やスーパーのほか、認知症の方ご本人や家族もちろんその一員です。今回は、地域で暮らす認知症高齢者の事例を通して、檜葉で進む「チームオレンジ」の取組みを詳しくご紹介します！

いつでもお気軽にご相談ください！

認知症地域支援推進員 馬上 友美

事例① 近所の方や民生委員の「あれ！？」という気づきが支援につながったケース

Aさん(85才 女性)の事例

Aさんは、町内で一人暮らしをしています。社交的できれい好きなAさんでしたが、最近家に閉じこもるようになり、室内は散らかった状態で、携帯電話にも出ず、処方薬を飲めずに残薬が袋にたくさんある…等の症状が出てきました。その後、Aさんの様子を心配した近所の方や民生委員さんから地域包括支援センターに「最近Aさんの様子が気になる」との相談が入りました。

Aさん(85歳)

心配… あれ！？ 最近ちょっと様子が…

民生委員 ご近所さん

相談 地域包括支援センターの対応

- 地域包括支援センター職員がAさん宅を訪問し、ご本人の生活状況、認知機能の低下等について把握。
- ご本人の意向を確認しながら必要な関係機関と連携し、医療受診や閉じこもり防止、安否確認等の支援につなげる。

相談後どうなった…？

医療受診

Aさん

町内の認知症専門医を受診し、検査を受けることができました。認知症の薬が処方され、薬剤師と連携し服薬管理も可能となりました。

介護予防事業(体操)を利用

Aさん

社会福祉協議会の介護予防事業(体操)に通い始めるようになり、利用者との会話も増えてきました。毎週体操に取り組み、転びにくくなりました。

地域の見守り・声かけの輪

Aさん

地域住民や民生委員さんたちがAさんをあたたかく見守り、ご近所さんが今まで通り、お茶飲みを誘うようになり、地域のつながりの輪が広がりました。

事例② 本人に生活の困り感がなく、福祉の支援に強い拒否があるケース

Bさん(90才 男性)の事例

Bさんは、町内で一人暮らしをしています。仕事一筋だったBさんは、近所との交流がなく、娘家族は遠方に住んでいます。最近、賞味期限切れの古いものを食べたり、娘さんとの予定を忘れることが増えてきましたが本人に困り感はありません。Bさんは「家にいるのが一番だ！」と言ってデイサービス等の福祉サービス利用に強い拒否があります。今回、娘さんがBさんの生活状況を心配し、地域包括支援センターに相談が入りました。

Bさん(90歳)

腐ってないし食べられる。何も心配ない

賞味期限切れの食品…

心配… 遠方に住む娘さん

相談 地域包括支援センターの対応

- 地域包括支援センター職員がBさん宅を訪問し、ご本人が普段どのような暮らしを送っているのかを把握。
- Bさんは料理に興味があると聞き、サービスの提供ではなくBさんの興味関心を活かした地域交流の場への参加を提案。

相談後どうなった…？

地域交流サロンを利用

Bさん

知り合いもいて楽しいよ

Bさんの興味関心を活かし、社会福祉協議会の地域交流サロンにお誘いしたところ楽しく通うようになりました。他の利用者との会話も生まれ、バランスの良い食事も摂れるようになりました。

地域の見守り・声かけの輪

Bさん

民生委員 遠方に住む娘さん

地域の見守りがあって安心しました

ご近所のCさん

同じサロンに通っているCさんが、毎朝の散歩の途中でBさんに声かけしてくれるようになりました。民生委員さんの定期訪問もあり、地域の交流が少しずつ増えています。

「チームオレンジ」についても詳しく！

チームオレンジでは、認知症の方を単に「支えられる側」と捉えるのではなく、「地域の大切な一員」と捉えています。事例①ではAさん版のチームオレンジが、事例②ではBさん版のチームオレンジがそれぞれ動いています。

Aさん版 チームオレンジ

- 普段から気にかけてくれているご近所さん
- 民生委員さん
- 医療機関
- 地域包括支援センター
- Aさん本人
- 介護予防事業所

Bさん版 チームオレンジ

- 遠方に住む娘さん
- 地域交流サロン
- 民生委員さん
- Bさん本人
- 利用者Cさん
- 地域包括支援センター

檜葉町では、認知症があっても自分らしく生活できる環境づくりを、ご本人や家族、地域の皆さんと一緒に考えて実践していくことを大切にしています。

高齢者・障がい者の総合相談窓口

TEL:0240-25-4155 FAX:0240-25-4156

〒979-0604 檜葉町大字北田字鐘突堂5-5 (檜葉町保健福祉会館3F)

Email: naraha-houkatsu@car.ocn.ne.jp

発行元：社会福祉法人檜葉町社会福祉協議会 檜葉町大字北田字鐘突堂5-5 (発行元責任者：福井光治)

お気軽にご相談ください。

馬上発信

～共に支え合い、つながる地域の輪～ 寸劇を通して地域のつながいをお伝えしました。

11月23日（土）ならば農福フェス2024の中で、第10回ならコレ（ならばコミュニティコレクション）が開催されました。馬上が高齢者役で寸劇の第1幕に出演していたのをご存知でしたか？今回は、寸劇「農福連携」の様子をご紹介します！

寸劇 第1幕



寸劇の内容 第1幕では、ある日の地域ミニデいで、社会福祉協議会による出前講座「農福連携」が行われている場面でした。

農福連携？なんとなく分かるような・・・
聡子ばあちゃん

ふたばの里は知ってるけど・・・。活動内容はよく知らない。
横田の爺ちゃん

田植えの苗箱運ぶ作業には人手がいるもんな。
友美ばあちゃん

ゆきえいさんはリリー園に入所したけどお正月は家で過ごしたみたいだ。

寸劇のポイント

私たちの周りには分かっているようで実は“あいまい”なことがたくさんありますよね。

檜葉町のことなのに、普段関わりがないと知らないことはたくさんあります。知る機会が大事ですね。

作業を分割してみると「その部分ならできる」という人（障がいがあっても）が増えますね。

特別養護老人ホーム等に入所しても、たまには家に帰る。入所サービス利用の考え方はいろいろですね。

寸劇 第2幕



寸劇の内容 物忘れの症状があり、要介護1の認定をもらったかずのり爺ちゃん。介護サービスの利用には強い拒否がありますが、福祉農園には張り切って出かけます。

慌てて介護保険の申請したものの、サービス拒否されてどうしようかと・・・
息子夫婦

福祉農園の活動がお父さんに合うとは・・・

農園に行くようになって、じいちゃん元気になったね。
孫

かずのりさんの元気な活動で若者にも良い刺激になってますよ！
農園ボランティアさん

寸劇のポイント

物忘れが出てきてもサービス利用が解決になるとは限りませんね。

本人の得意分野が活かされるんですね。

自信や生きがいが大事！

認知症になっても、支えられるだけでなく、地域の中で役割を持てるのが大事です！

感想

～ならコレを終えて～
舞台上演するのは…小学校の学習発表会以来。照れと緊張と不安でいっぱいでした！寸劇では、農業と福祉の連携を通し様々な人が活躍できていることや支え合いの場面を感情込めて表現してみました。皆さんに伝わったでしょうか？寸劇は身近な場面を表現するので、言葉での説明よりも伝わる力が強いと感じています。これからも地域に出向き、日常にある支え合いの場面を発信していきたいと思ひます。



檜葉町地域包括ケアシステム

まじわる つながる 支え合う リレー

檜葉町地域包括ケアシステムに関わる多様な関係機関をリレー方式で紹介するコーナーです。ふたば支援学校から一般社団法人8色にバトンが繋がりました。

第7走者



私たちもいます！

双葉郡8町村で広域に活動
～スタッフは5名～
今回は女性職員にインタビュー!!



四條さん、遠藤さん

～一般社団法人8色～

双葉地方権利擁護支援センター

認知症・知的障がい・精神障がい等の理由により判断能力の不十分な方が地域で安心して暮らせるように権利擁護の普及啓発を進めています。

基幹相談支援センターふたば

障害をお持ちで支援が必要な方と事業所や相談員など支援者をつなぐ役割を担っています。障害福祉分野においてどのような相談でも受け付ける相談窓口です。

ふたば支援学校とのつながり

- ・学校運営協議会の一員で地域と共に子供たちを育てる学校づくりに取り組んでいます。
- ・早期から関わり、途切れない支援をするために学校との関わりを大切にしています。
- ・高等部の生徒とその保護者を対象に、卒業後に向け、相談支援者をつなぐための説明会を行ったり、卒業後「ここに相談すれば大丈夫」と安心して生活を送るための支援を行っています。

檜葉町とのつながり

- ・檜葉町保健福祉会館の2階に事務所があり、住み慣れた地域で自分らしく生活を送れるよう権利擁護支援と基幹相談支援を両立させながら取り組んでいます。
- ・地域ミニデいで出前講座も開催し、地域包括支援センターとは密につながっています。檜葉町社会福祉協議会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、檜葉町保健福祉課、町こども課とも連携を図り、共に課題解決に取り組んでいます。

皆さんの思い～

小林美香子さん
乳幼児期～成人期の成長段階に合わせて、支援をきめ細やかに！人とのつながりを大事にしていきたいです。

亀田沙貴さん
アートと障がいは似ていると思います。誰でも表現できるものだから！その人らしい生活を支援していきたいです。

根本ゆかりさん
どんなことでも支援を行います。少しでも困っていたらご連絡下さい。切れ目のない繋がる支援を行います。

～みんなのつばやき2025年 抱負叫び～

センター長 江尻
コツコツと課題ひも解くニューイヤー

社会福祉士 渡邊
担いたい地域と共に参加支援

生活支援コーディネーター 小林
これからも地域の声を大切に

看護師 馬上
身ひきしめ心にゆとりよき年に